東京税関
国際物流懇談会
発表資料

SP貨物の現状と展望

平成26年3月6日

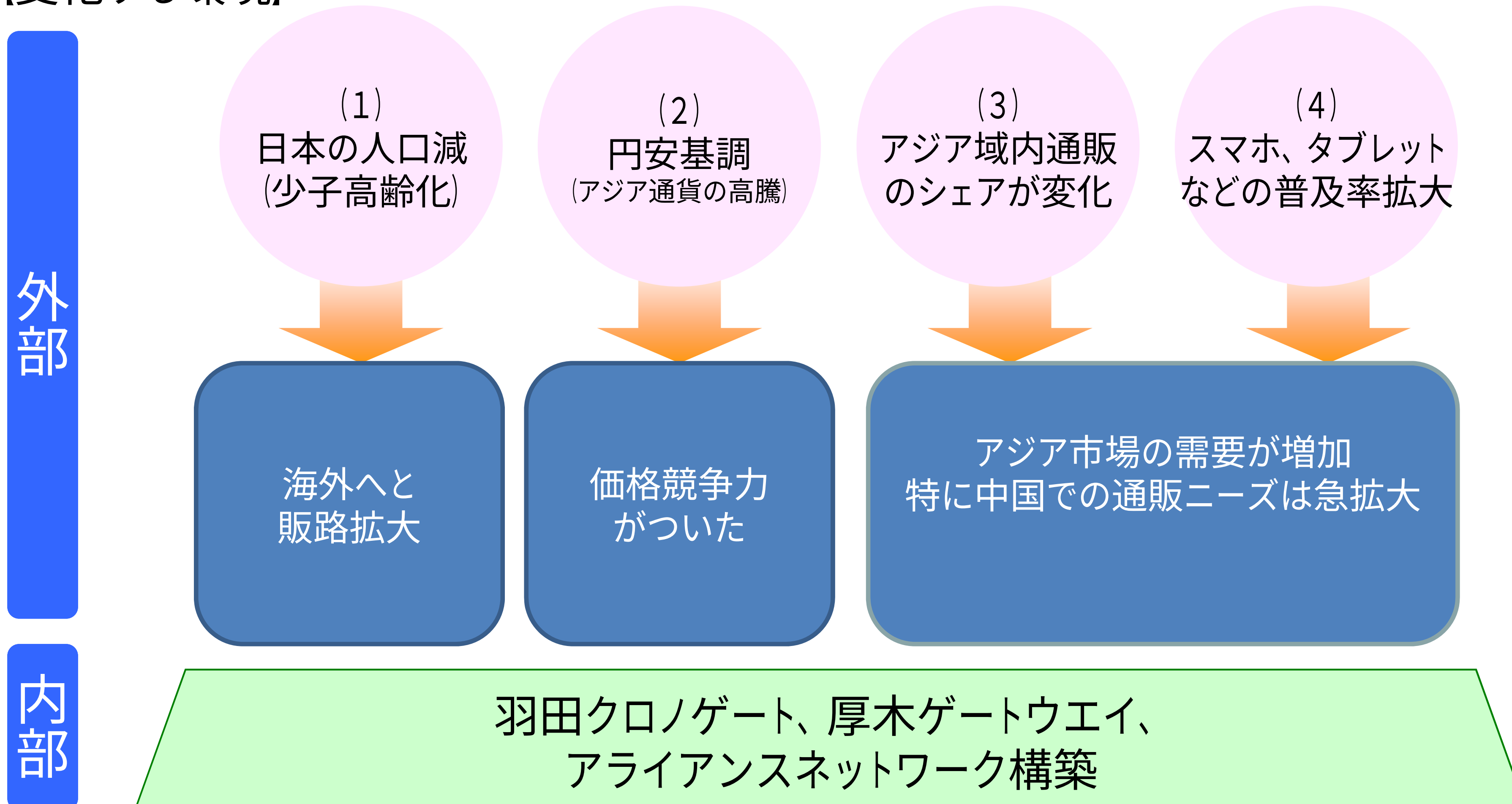
ヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社

目次

1. イントロダクション

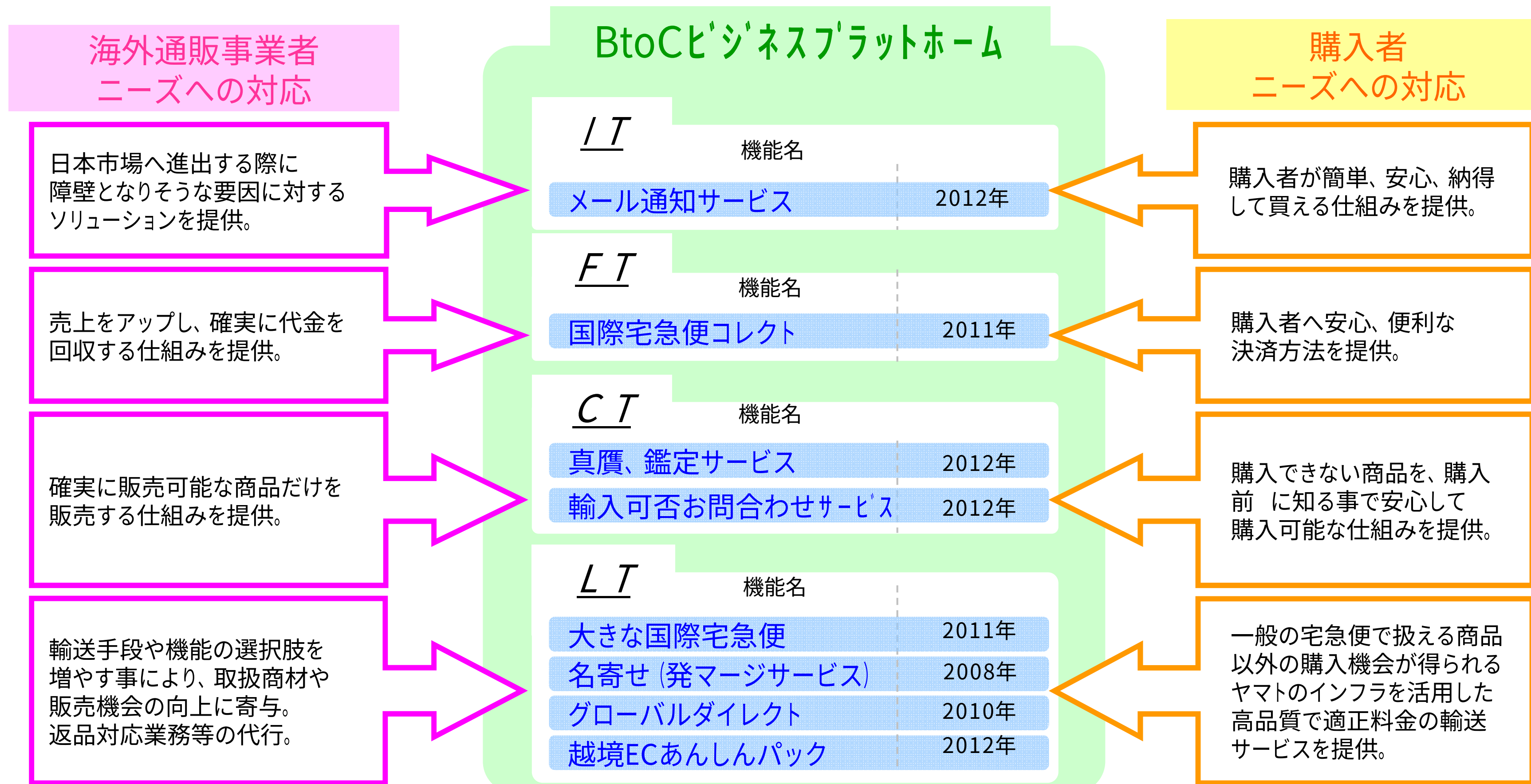
日本のマーケット トレンドは、
欧米からの輸入基調 ⇒ アジア市場への輸出モードへ

【変化する環境】



2. 国際小口貨物事業コンセプト

世界の人々が、国境を意識せず、“欲しいもの”を“自由”に買える
国際通販のプラットフォームを構築する。

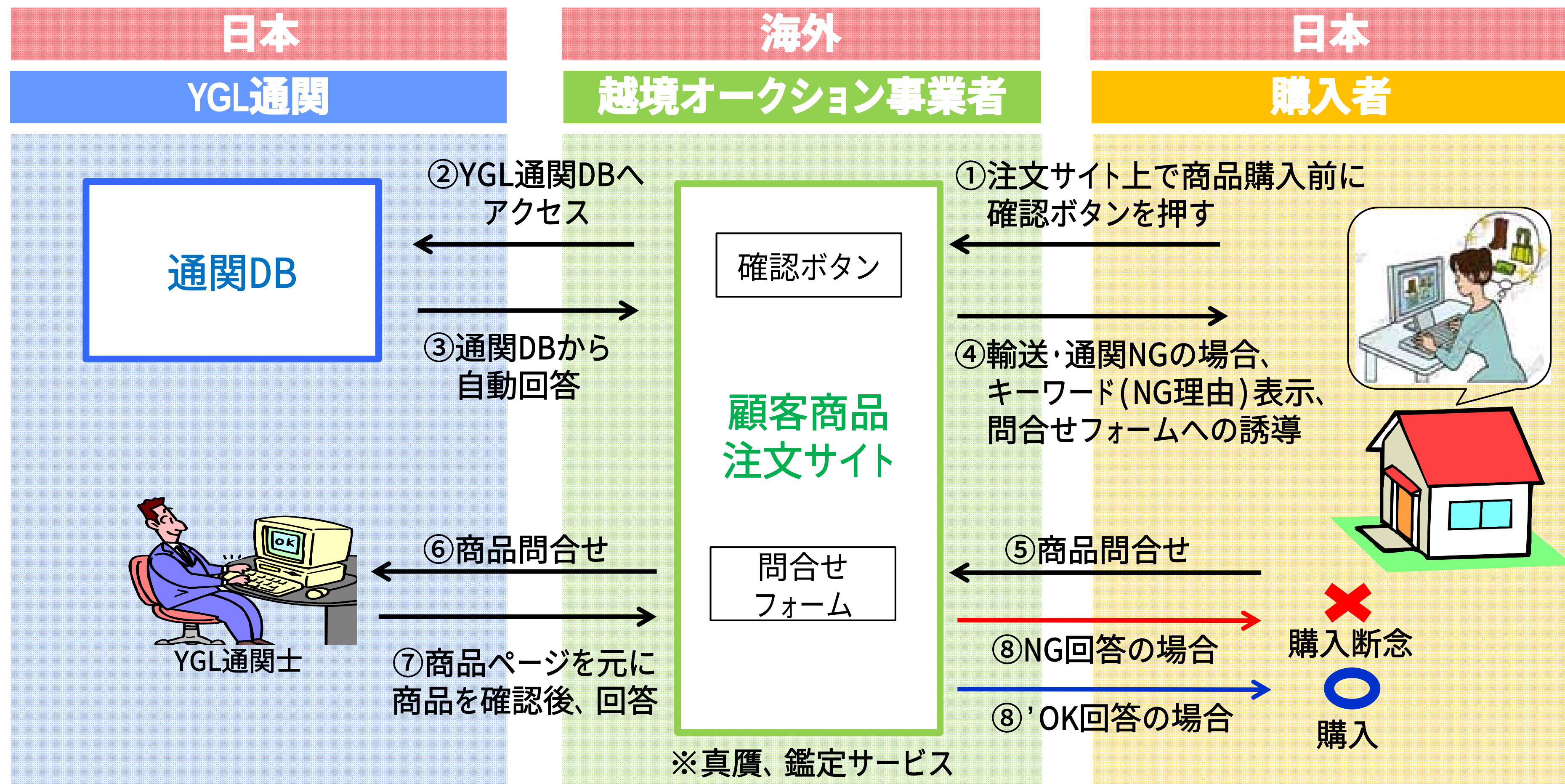


＊　欧米からの輸入が圧倒的に多い

＊　アジアからの輸入は香港･韓国発が増加傾向　（２０１３年度実績）

3．迅速なサービスのしくみ

仕向国の輸入規制に該当するか否かを商品購入前にスクリーニングし、
輸入通関で止まらないスピーディーなサービスを提供する。

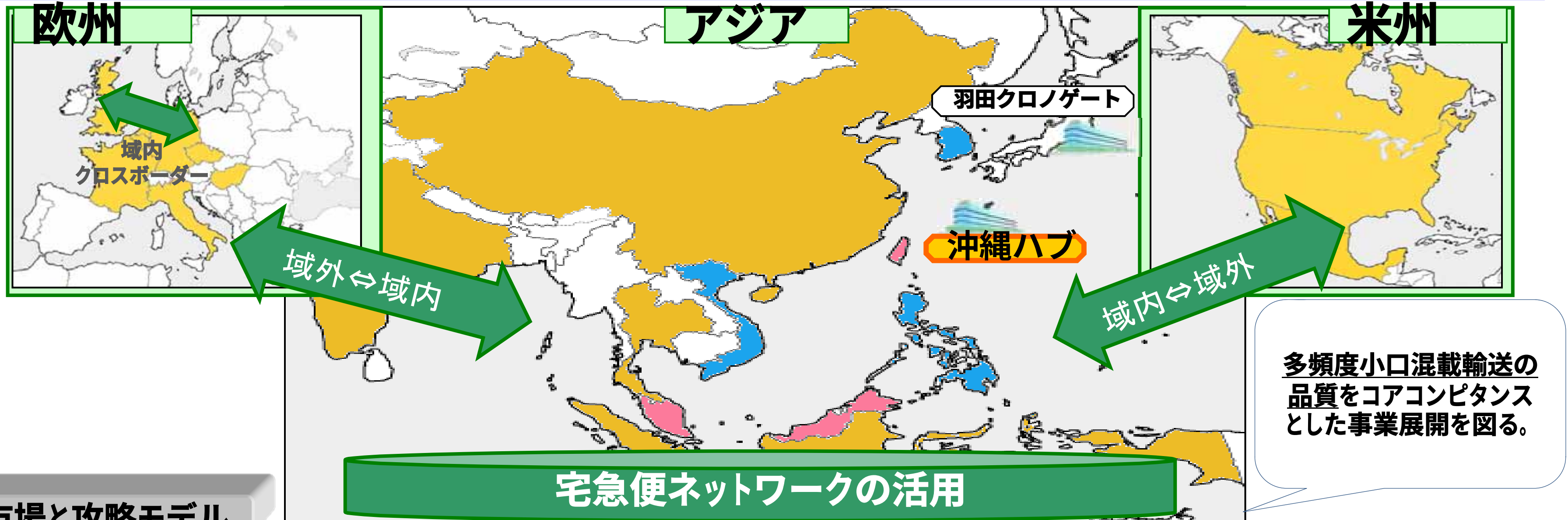


なお、CtoC貨物に関しては、全て発地国で内容点検を実施しています。

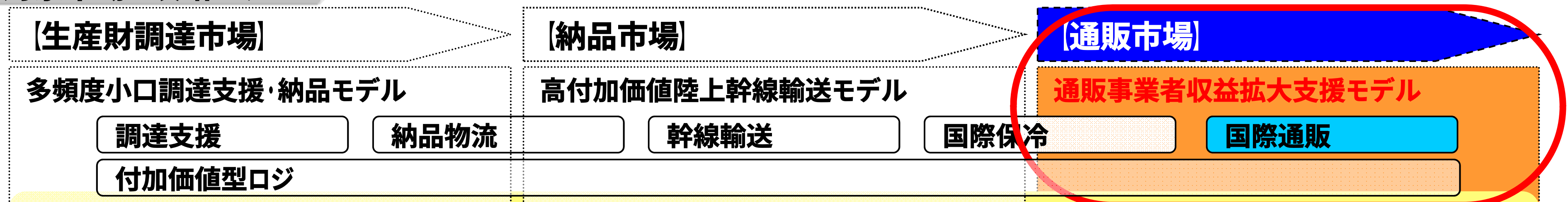
4．今後の展望

①目指す方向性

アジア域内⇔域外をシームレスに繋ぐ宅急便ネットワークを構築し、
欲しいときに欲しいものが手に入る豊かな社会の実現を図る。



対象市場と攻略モデル



◆ 羽田クロノゲート・沖縄ハブの有効活用により、アジア圏翌日配達を実現する。
◆ 輸出型ＢｔｏＣサービスの本格的な展開を図る。

（水平展開）アジア宅急便ネットワークを活用し、多国間物流を展開する。
（※　アジア域内、欧米発-アジア、アジア発-欧米　などマルチカントリーな物流を取込む）

4. 今後の展望

②羽田クロノゲート・沖縄ハブの機能活用

海外と日本をシームレスにつなぐ最適物流

羽田クロノゲート⇒国際空港・港に近接した地の利と、グループ機能へのスムーズに結節する。





スピード通関
- オートメーション化された通関体制
- 2013年国際小口貨物取扱業者では国内初のAEO認定

ローカライズ作業
- 輸入食品を日本で販売する際に必要な、日本語表示ラベルの貼付代行
- 日本語取扱説明書封入
- 納品前の輸送ダメージ確認

国内外マージ
- 輸入品と国内調達品の詰め合わせ
- 異なる輸入先の商品をマージ・一括納品

宅急便ベース直結
- スパイラルコンベヤにより1Fの宅急便ベースへ自動で送り込み
- 貨物エレベーターによりスムーズに館内グループ機能へ結節。
- マイナス20℃～プラス5℃の温度管理
- 保冷の保税蔵置場を完備
- 保冷のままクール宅急便へ引き渡し

常温・保冷　いずれの温度帯でも対応可能

リードタイム削減　**コスト削減**　**品質保持**

沖縄ハブ⇒アジア圏翌日配達の拠点

那覇空港を中継拠点（ハブ）とし、
24時間通関や保税倉庫などの機能を活用した
「アジア圏ドア・ツー・ドアー貫輸送プラットフォーム」

アジア向け国際宅急便の最短翌日配達



4．今後の展望

③輸出型BtoCの本格的な展開

中国にフォーカスした直送モデルを確立し通販物流を取込む

ヤマトに強みが出せる要因

①東アジアで通販市場が拡大
②アジア宅急便ネットワークや羽田・厚木・沖縄などの機能拡大
③アライアンスネットワークの拡大



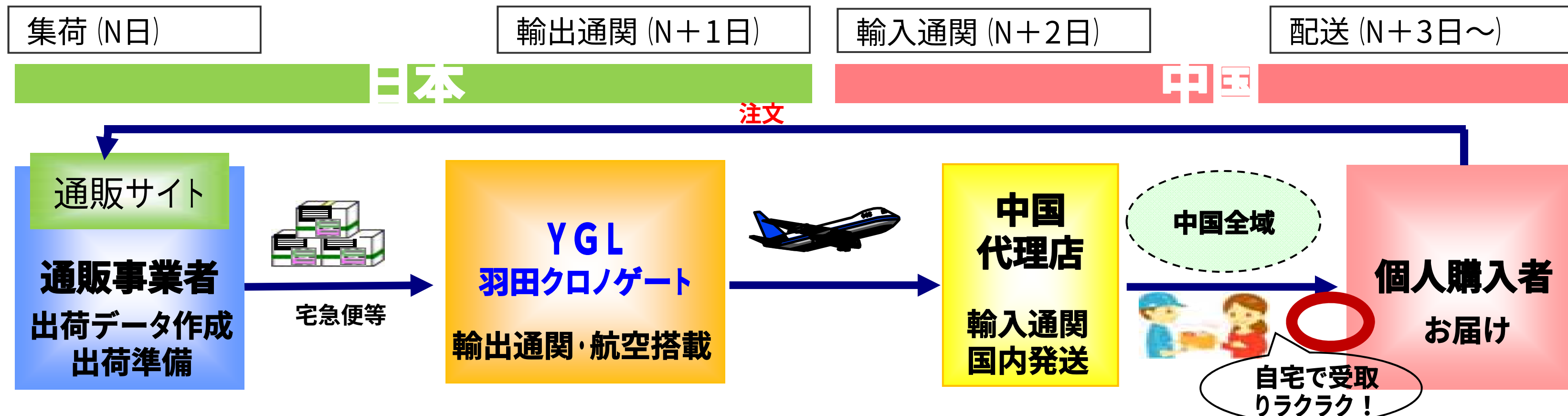


594万個
144億円
（2012年）

日本発中国向けEコマース市場規模

1370万個
332億円
（2020年）

ヤマトの強みが出せる環境が整ってきた。



日本発中国向けサービスを発展させ、アジアの他地域向けの通販市場へと参入する。

5．現状の課題と要望

①羽田での海上通関

(課題)

航空貨物 ○　海上貨物 ×

現在、羽田では航空貨物のみの取扱いになっている。

(要望)

航空貨物 ○　海上貨物 ○

羽田で、海上･航空の輸送モードの両方の通関を取扱いが出来るようにしたい。
⇒取引増大～経済活性化につながる。

②輸出通関手続きの簡素化

(課題)

･輸出通関が許可制

着地のユーザーまでのリードタイムが長引く

時間軸

(要望)

･輸出通関の簡易化

着地のユーザーまでのリードタイムが短縮できる

時間軸

【参考資料】

グループの中の当社のポジションと役割

